

【目指す学校像】

未来を主体的に生き抜く力を育む学校

自分のよさや可能性に気付き、自分で考え、決め、行動し、他者と協働しながら、よりよく生きていく力を育てる。

【学校教育目標】

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

【はるえアクション・スローガン】

- 【は】つけん（発見）・気付く  
自分や課題に気付き、学ぶ意味を見いだす
- 【る】ルートを考え、つながる  
目標に向けて考え、決めて、行動する
- 【え】がお（笑顔）を創り出す  
自分も他者も大切にし、幸せや思いやりを広げる

【令和8年度の重点方針】

1 学力向上

●「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」が生まれる授業づくり

教員がファシリテーターとなり、導入や発問を工夫し、生徒の問いや学ぶ意欲を引き出す授業を行う。

●主体的・対話的で深い学びの実現

話し合い、説明、記述、発表の場を意図的に設定し、自分の考えを深める学習活動を充実させる。

●指導と評価の一体化の推進

単元の目標や評価規準を明確にし、振り返りやルーブリック等を活用して学びを見える化する。

●ICT活用の推進 授業支援ソフト「ミライシード」の積極的活用

1人1台端末やデジタル教材を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを進める。

●自己管理能力、学習習慣の育成

Foresight手帳等を活用し、計画・実行・振り返りの習慣を身に付けさせる。

【具体的方策より一部抜粋】

・各教科の充実

学習のねらいと評価を明確にし、基礎学力の定着と探究的・協働的な学びを進める。

・道徳教育の充実

ローテーション授業や地域・家庭との連携を通して、「考える道徳・議論する道徳」を推進する。

・総合的な学習の時間の充実

個人探究テーマを軸に、校外学習・キャリア教育・SDGs学習を横断的に結び付ける。

・読書科の推進

個人探究テーマとも関連付けながら、POP作りやビブリオバトル等を通して表現活動を充実させる。

2 生徒に寄り添う指導の推進

●一人一人の背景や思いを理解した丁寧な指導

日常の声かけや面談を通して、生徒理解を深めた上で指導に当たる。

●いじめ、不登校を生まない学年・学級づくり

安心して過ごせる人間関係づくりと居場所づくりを、学級経営の基盤に据える。

●教育相談体制の充実

担任だけで抱え込まず、教育相談担当や関係職員と連携して早期対応を行う。

●特別支援教育と合理的配慮の推進

個々の実態に応じた支援内容を共有し、継続的で一貫した支援を行う。

●小さなSOSを見逃さない組織的支援

欠席傾向、表情、言動の変化などを学年・学校全体で共有し、早期に対応する。

【具体的方策より一部抜粋】

・特別活動の充実

学級活動・生徒会活動・学校行事を通して、自主性・協働性・自己有用感を育てる。SCによる授業を実施する。

・生活指導の充実

スクールライフの共通理解、二者面談、いじめ防止の組織的対応を徹底する。

・進路指導の充実

職業調べや職場体験、上級学校調べ等を通して、主体的な進路選択と将来設計を支援する。

・人権教育の推進

多様な人権課題への理解を深め、共生社会の実現に向けてよりよく行動できる資質を育てる。

・特別支援教育の推進

教育支援委員会を核に情報共有を進め、個別指導計画に基づく支援を組織的に行う。

【学校経営で意識したい視点】

- 学力保障と「楽しく・わかる授業」
- 不登校・いじめの未然防止と安心できる居場所づくり
- ICT・生成AI・校務DXの活用と情報モラル
- 心のケア・多様性・人権を大切に教育
- 働き方改革と、相談しやすい組織づくり

【教職員に大切にしてほしい3つの柱】

柱1 生徒の自己肯定感・自己有用感を高める

- ・楽しく、わかる授業
- ・主体的な活動の充実
- ・自己調整力の育成

柱2 教職員のモチベーションを高める

- ・一人一人の持ち味を生かす
- ・前年度踏襲を当たり前にならない
- ・報・連・相を迅速に、かつ正確に

柱3 保護者・地域の理解と参画意識を高める

- ・丁寧で誠実な対応
- ・地域資源を積極的に活用
- ・地域全体で生徒を育てる

【合言葉】

生徒も、教職員も、保護者も、地域も、みんなが「元気になる学校」をつくる

全教職員が同じ方向を向き、  
生徒一人一人の可能性を  
最大限に引き出す学校づくり  
を進めていきましょう



